

## 5 看護学研究科の概要

### 1) 特色

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び統合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっている。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有し、学問的理念を基盤として研究を推進する自立した教育者・研究者の果たす役割が大きい。

看護学研究科は、このような社会の要請に応える人材を育成し、札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指している。

なお、看護学研究科では、平成17年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むこととする。

### 2) 教育目的

看護学研究科では、以下の能力の修得を通して、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ看護学を発展させることのできる研究者・教育者や、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。

- ① 正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力  
少子高齢社会の渦中にあり、多様な価値観を持つ人々に対し、正確性、緻密性及び独創性を兼ね備えた高度な看護実践能力を養う。
- ② 高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力  
人権意識や倫理観が厳格に問われるとともに複雑化する社会にあって、専門看護分野において柔軟に対応し、高い倫理観を持って自ら分析・判断・行動・評価する能力を養う。
- ③ 他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力  
医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力をさらに高め、保健・医療・福祉分野でリーダーシップを発揮できる能力とともに、看護の各専門領域において看護の将来展望を視野に入れた変革・統合・調整・教育能力を養う。
- ④ 積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力  
積雪寒冷地においてライフサイクルに応じた健康づくりに関する課題を探求し、課題解決に向けた能力を養う。

### 3) 育成する人材像

保健・医療・福祉が日々新たな課題を抱える中、様々な人々の健康レベルに対応できる卓越した高度看護実践者、専門化・複雑化及び高度化した看護の質の向上に必須な看護管理者、看護の質を確保する看護技術の開発・評価を担う看護者あるいは科学的知識と学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる研究者、次世代の看護の基礎教育・継続教育の中心的担い手としての教育者を育成する必要がある。また、今後は、研究能力を有した看護実践者及び臨床能力を有する研究者・教育者の育成がより一層求められている。

このため、看護学研究科においては、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成(専門看護師を含む)
- ② 総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
- ③ 地域や在宅においては健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
- ④ 看護の学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる看護研究者の育成

- ⑤ 次世代の看護教育の中心的担い手としての教育者の育成
- ⑥ 看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
- ⑦ 幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

## 6 助産学専攻科の概要

### 1) 特色

助産学専攻科では、学士課程4年間において培った自己研鑽力が発揮できる教育課程を特色としている。

その1つとして、選択科目を設定せず、学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創っている。加えて、この学びの更なる発展に向け文献研究を行う。

また、1年間の学修では、助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、ハイリスク事例に対応できるような高度な知識・技術を熟練した助産師と専門医のもとで修得する。この学修では看護師資格が大いに役立っている。

### 2) 教育目的

札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤に、各種助産技術能力の正確な修得を目指し、次のような教育を目的とする。

- ① 助産師に必要な基本的かつ高度な知識が修得できる。
- ② 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術が修得できる。
- ③ 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアが実践できる。

### 3) 育成する人材像

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、助産師の需要がさらに増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。

このため、助産学専攻科においては、次のような人材を育成する。

- ① 助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有する助産師
- ② 地域社会における母子健康の向上に貢献できる助産師
- ③ 人間性豊かな助産師